

学 長 候 補 者 調 書

(履歴事項)

平成27年 3月 12日現在

(フリガナ) 氏 名	ジャアナ ハルオ 蛇穴 治夫	
生 年 月 日	昭和31年 月 日 (満 58歳)	
現 住 所	[REDACTED]	
最 終 学 歴	北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了	
学 位・称 号	理学博士 (北海道大学)	
専 門 分 野	生物学	
現 (元) 職 名	国立大学法人北海道教育大学理事	
経 歴 (学歴・職歴)	(学歴)	
	昭和50年3月	青森県立弘前高等学校卒業
	昭和50年4月	北海道大学理類入学
	昭和54年3月	北海道大学理学部生物学科 (動物学専攻) 卒業
	昭和54年4月	北海道大学大学院理学研究科修士課程動物学専攻入学
	昭和56年3月	北海道大学大学院理学研究科修士課程動物学専攻修了
	昭和56年4月	北海道大学大学院理学研究科博士後期課程動物学専攻入学
	昭和59年9月	北海道大学大学院理学研究科博士後期課程動物学専攻単位取得退学
	昭和61年3月 25日	北海道大学大学院理学研究科博士後期課程動物学専攻修了
	(職歴)	
	昭和59年10月 1日	北海道教育大学助手教育学部旭川分校 採用
	昭和63年5月 1日	北海道教育大学助教授教育学部旭川分校 昇任
	平成17年6月 1日	北海道教育大学教育学部教授 (旭川校) 昇任
	平成19年8月 27日	国立大学法人北海道教育大学理事
		現在に至る

私は、学長候補者選考の過程でこの調書及び学長候補者所信書の内容が公表されることに同意します。

氏 名 蛇 穴 治 夫 (自署)

(注) 用紙は、A4縦型とする。

主要業績

(教育関係)

1 教育経験

教育研究歴 通算 35年（うち、理事と兼務の期間7年6ヶ月）

2 担当授業科目

[学部]

生物学概論Ⅰ（2単位）、細胞学（2単位）、生物学（2単位）、生物学特講Ⅰ（2単位）、基礎生物学実験（1単位）、中学校理科実験Ⅰ（1単位）、中学校理科実験Ⅱ（1単位）、生物学実験（2単位）、小学理科実験研究（2単位）、小学校生活科教育法（動物園実習担当）（2単位）

[大学院]

細胞生理学特論（2単位）、細胞生理学特別演習（2単位）

修士論文の指導

3 教育改善に係る業績

- ・平成10年度～平成12年度、旭川校FD推進研究会委員
- ・平成15年度～平成16年度、旭川校FD専門委員会（現・FD委員会）委員長

上記の期間、下記の報告書を執筆

- ①「よい授業を求めて～個人レベルでのFD～」、『教育と大学』（平成11年3月）、pp.95-104。
- ②「ファカルティ・ディベロップメント（FD）を支援するカルガリー大学の "Learning Commons"」、『FD』（平成12年3月）、pp.123-133。
- ③「わかる授業をめざして」、『FD』（平成13年3月）、pp.32-33。
- ④「成績評価の現状を調査して」、『FD』（平成16年3月）、pp.2-28。
- ⑤「『授業評価』をめぐる、学生の不信感や意見に答えて」、『FD』（平成16年3月）、pp.34-41。
- ⑥「新たな「学生による授業評価」に向けて」、『FD』（平成17年3月）、pp.1-12。

○授業改善に資する、その他の報告及び論文

- ①「一般生物学の実践と一般教育に対する私見」、『一般教育の検証』（平成5年度北海道教育大学教養教育検討プロジェクト報告書）、pp.38-44。
- ②「多人数講義における授業の工夫」、『旭川実践教育研究』、第2号（平成10年）、pp.133-145。

主 要 業 績

(研究関係)

[本学採用時点の業績]

主として、環形動物貧毛類（イトミミズ）の生殖系に関する研究

- The Ultrastructure of the Epithelial Lining of the Male Genital Tract and Its Role in Spermatozeugma Formation in *Tubifex hattai* Nomura (Annelida, Oligochaeta). Zoologischer Anzeiger, vol.209, 1982, pp. 159-176.
- Studies on the Male Reproductive System and Spermatogenesis in the Freshwater Oligochaete, *Tubifex hattai*. 学位論文（北海道大学）, 1986, 133頁.

[理事就任（平成19(2007)年）前後の業績]

学校教育及び教員養成に関わる研究として、動物園の教材化等に取り組んだ

- 「頭骨レプリカ及び糞乾燥標本を用いた、中学校理科・動物分野の導入授業」。旭川実践教育研究, 第5号, 2002, pp. 49-57. (小西良平、蛇穴治夫)
- 「中学校理科『動物のなかま』に関する進化を意識させる教材開発」。旭川実践教育研究, 第9号, 2005, pp. 59-66. (佐賀真一、蛇穴治夫)
- Guidebook for science teaching in primary school. JICA NCERD, 2006, 441頁, (Ubukata, Kuragano, Tanaka, Abe, Oguro, Asakawa, Suzuki, Jaana, Namikawa, Wada, Hasegawa)
- 「初等理科」, 北海道教育大学旭川校, 2007, (古屋光一、大鹿聖公、阿部修、浅川哲弥、蛇穴治夫、藤山直之、長谷川俊雄、和田恵治)
- 「一枚ポートフォリオと学習内容の理解度の関係性に関する研究 —中学校3年生『化学変化とイオン』を事例にして—」。北海道教育大学紀要(教育科学編), 64巻, 1号, 2013, pp. 235-250. (古屋光一、須藤穂波、阿部修、浅川哲弥、蛇穴治夫、関口朋彦)
- 「理科基礎実験書」, 北海道教育大学旭川校, 2014, (阿部修、永山昌史、松田禎行、浅川哲弥、西川恒彦、蛇穴治夫、藤山直之、今村彰生、和田恵治、関口朋彦)
- 科学研究費補助金(基盤研究(C))、平成17~19年度
「動物園を活用した中学校理科の教育プログラムの開発とその普及」
(課題番号 17500572) (研究成果報告書、2008.3)

主要業績

(社会貢献関係)

1. 審議会等の活動

- ・旭川市博物館、博物館協議会委員、平成9年9月～平成13年8月
学識経験者の一人として、生物学の専門の立場から意見を述べ、博物館の運営に資する活動を行った。
- ・旭川市都市景観委員会委員、平成11年11月～平成13年10月
旭川市長の諮問に応じて、旭川市の「都市景観に配慮した魅力あるまちづくり」について、生物学的な観点から意見を述べた。
- ・旭川市都市景観条例検討委員会委員、平成13年5月～平成14年3月
旭川市の都市景観条例を制定するための検討委員会委員において、学識経験者として議論に参加し、条例制定に寄与した。
- ・旭川市環境審議会委員、平成16年11月～平成18年11月
旭川市に設置された旭川市環境審議会委員の学識経験者として、旭川市の環境保全に関する基本的事項についての審議に加わった。

2. 学会活動

- ・日本動物学会北海道支部役員
平成13年1月～平成14年12月 / 平成15年1月～平成16年12月 / 平成17年1月～平成18年12月
選挙により3期連続で選出され、通算6年間にわたり日本動物学会北海道支部の活動（支部大会、支部講演会、全国大会準備）に尽力した。
- ・旭川実践教育学会・学会誌編集委員、平成8年5月～平成17年：学会誌の編集委員を務めた。

3. その他の社会的活動

- ・平成15年、第44回日本動物園水族館教育研究大会・一般公開シンポジウムのパネリスト
「教員養成大学として、学校と動物園・水族館の連携・融合にどう関われるか」
- ・旭川市旭山動物園との連携で「旭山動物園教育研究会」の立ち上げに関わった。この会は現在も存続している。平成18年9月2日に「旭山動物園教育研究会規約」を定め、「学校と動物園が融合し、こども達に動物のすばらしさを伝える。」ことを目的に、学校の教師を対象とした年2回のワークショップと動物園観察会等の実施を行うこととした。

(注) 用紙は、A4縦型とする。

主 要 業 績

(経営・管理運営関係)

1. 北海道教育大学理事

平成19年8月27日～現在に至る (7年6ヶ月)

○大学改革担当 (平成19年8月27日～平成25年3月31日)

- ・大学改革担当理事として、平成22年6月より学部設置構想に取り組み、平成22年9月27日より文部科学省との折衝に臨んだ。
- ・文部科学省との交渉中、平成24年6月5日に文部科学省が「大学改革実行プラン」を公表し、それに基づくミッションの再定義に臨み、最終的には、国際地域学科(函館校)及び芸術・スポーツ文化学科(岩見沢校)の設置認可申請書を取りまとめ、平成25年5月31日に文部科学省へ提出した。
- ・平成25年10月31日付で学科設置が認められ、平成26年4月より二つの学科をスタートさせることができた。

○教育担当 (平成25年4月1日～現在に至る)

- ・大学改革担当理事として平成24年6月からの、文部科学省によるミッションの再定義に臨んだ。
- ・平成25年12月、教員養成系大学・学部のミッションが公表され、教育担当理事として、それを踏まえた「北海道教育大学教員養成改革の基本方針」を取りまとめた(平成26年1月28日)。
- ・上記基本方針に基づき、教員養成改革推進本部を設置し(平成26年3月11日)、副本部長として教員養成改革のための12のプロジェクトを実質的に統括。
- ・平成27年度からの新カリキュラムスタートに向け、プロジェクト管理者として、「北海道教育大学教育課程編成の基本方針」を策定し、教育研究評議会において審議・決定した(平成26年11月20日)。
- ・現在、12のプロジェクトのうち4つのプロジェクト管理者としてプロジェクトを進めている。

(注) 用紙は、A4縦型とする。